**トンボ自然公園**

このトンボの保護区には、60種を超えるトンボが生息しており、博物館と水族館が隣接しています。公園を訪れる人々は、池、花畑、林、水田を巡り、色鮮やかな珍しいトンボを間近に見ることができます。スイレンやアヤメのような季節の花々は、池に色彩を添えます。また、トンボがこれらの花々にとまるところは写真映えがします。この公園は一年中開園しており、トンボの成虫は3月から12月にかけて見ることができます。屋内の水族館では300種もの世界中の魚、特に四万十川の魚を見ることができ、隣接する博物館には世界中から集められた昆虫の標本が展示されています。

この公園には、日本一大きいトンボから一番小さいものまで、多くの種類のトンボとイトトンボが生息しています。日本一大きなトンボ、オニヤンマ (Anotogaster sieboldii) は、体長が約10センチもあります。コフキヒメイトトンボ (Agriocnemis femina oryzae) は日本一小さなトンボの1つで、長さは約2センチです。その特徴は、オスの成虫の頭と胸に白い粉のような模様があることです。

チョウトンボ (Rhyothemis fuliginosa) は、その大きな玉虫色の青い羽で有名です。このトンボは、一見、蝶のようにひらひらと飛んでいるように見えます。夏には、これらの特徴的なトンボが池の上を飛び交い、公園を飛び回ります。時期がよければ、トンボとイトトンボが池、せせらぎ、水田の周りに産卵しているのを見ることができるかもしれません。

水田は、生態系に優しい農業のよい例です。トンボは小さな虫を餌としており、水田で農薬を使う必要が減ります。水質や湿度といった環境条件に非常に敏感な種類のトンボもいます。この公園を訪れる人は、環境変化の自然の監視役としてのトンボの重要性と、淡水生物の多様性を維持するうえでトンボが果たし得る役割を理解できます。